

# 当クリニックではNPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構のマンモグラフィ検診施設画像認定を平成27年4月に取得しました。



30～60歳代の日本人女性がかかるがんのトップは乳がんです。年間6万人の女性が乳がんの告知を受け、年々増加傾向にあります。生涯のうちに乳がんになる女性は50年前には50人に1人だったのに対し、現在は12人に1人まで増加しており、今後もさらに増えていくと予想されています。年齢別に見ると、乳がんの罹患率(病気になる割合)は、30代後半から急激に増え始め、40代後半に最も多くなります。最近では、60代前半で再びもうひとつのピークがやってくる傾向があります。40歳になったら最低でも2年に1度のマンモグラフィ検診をおすすめします。乳がんは早期発見して適切な治療を受ければ、ほぼ治癒することができるといわれています。

NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構(以下精中機構)の施設画像評価委員会では、書類審査(マンモグラフィ撮影装置の精度管理の実施状況および実施記録と医師放射線技師の精中機構の講習会への受講歴)、画像評価(評価委員会が作成した基準に基づいた高濃度、不均一高濃度、乳腺散在の3種類の臨床画像)、線量評価(ガラス線量計を用いた乳腺への放射線被ばく線量)から評価を行い、評価基準に合格した施設に施設画像認定証を発行しています。

マンモグラフィ検診の実施機関は日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たした撮影装置で実施することが必要とされています。撮影装置が仕様基準を満たしていても、撮影条件によっては、不適切な画像となることも珍しくありません。そこで、精中機構が良い画像を撮影するためのマンモグラフィ施設評価を行っております。マンモグラフィ施設画像認定は3年毎に再評価を受ける必要があります。

安心して良いマンモグラフィ検診を受けるには、医師・放射線技師の教育・研修と使用する撮影装置の精度管理が適切

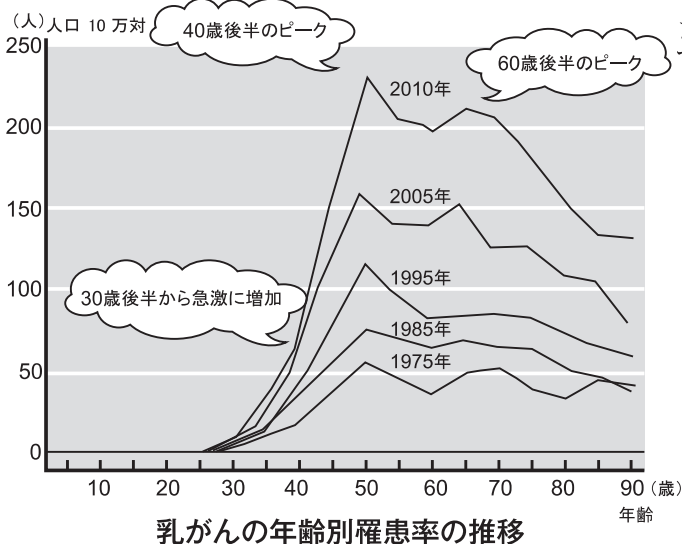
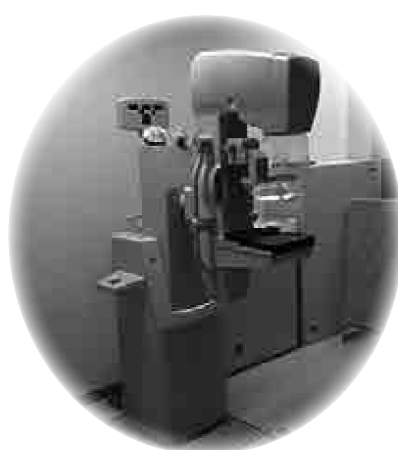
な施設で受診することが重要です。当クリニックでは精中機構から認定を受けた医師放射線技師による、マンモグラフィ検診を行っています。

最近、有名な芸能人が乳がんを患いマスコミが大きく報じ、話題になって



います。当クリニックのマンモグラフィ検診に関するお問い合わせも増え、マンモグラフィ検診への関心の高まりがわかります。

平成24年度高松市における乳がん検診受診率は29.2%とがん対策推進基本計画で国が目標としている50%には未だ達していません。マンモグラフィ検診について何かご不明な点がございましたら、当クリニックのピンクリボンアドバイザーにご相談ください。ピンクリボンアドバイザーとはNPO法人乳房健康研究会が認定する乳がんやマンモグラフィ検診について、正しい知識を持ち、まわりの人にマンモグラフィ検診を受けるきっかけをつくる人のことです。



※独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターのがん登録・統計より改変引用